



活躍の現場から



● 多文化共生・国際交流の推進に向けて —— 埼玉県県民生活部国際課

はじめに

埼玉県は22万人を超える外国人が生活しており、県民のおよそ33人に1人が外国人です。外国人が共に地域で生活することがごく当たり前になっていることから、日本人住民と外国人住民のそれぞれが能力を発揮して活躍できる「誰もが主役の多文化共生社会」の実現を目指しています。

また、世界の人々と言語、宗教、文化の違いを認め合い、相互理解と信頼を深めていくため、5つの国の州・省と姉妹友好提携を行いさまざまな分野で交流を行うなど、積極的に国際交流を行っています。

このような取組を進める上で国際交流員（CIR）は欠かせない存在であり、埼玉県国際課では、現在、2名を任用しています。

埼玉県で活躍する CIR

こちらが当課 CIR のベサニー・レネー・パイユさんとアニータ・リ・シェン・ランさんです。



埼玉県国際課の CIR（左がベサニーさん、右がアニータさん）

ベサニーさんはアメリカ出身で当課勤務3年目、アニータさんはオーストラリア出身で当課勤務2年目です。2人とも、県政出前講座の実施や庁内の翻訳・通訳業務、外国語指導助手（ALT）の相談対応などの活動をしています。

本県の外国人住民数は全国第5位の水準で、今後も増加が見込まれており、日本人住民と外国人住民が相互理解を深めていくことが大切です。

2人は、CIRとしての視点を生かした講座を通じて、県民の多文化共生への意識づけの一翼を担っています。また、多言語での情報発信が求められることから、庁内各課からのさまざまな分野での翻訳依頼に対応するため、日々、制度の内容や難しい行政用語の勉強に励んでいます。さらに、やさしい日本語で情報発信をする際も、2人は文案作成の段階から関わっており、外国人の視点から改善点などを提案しています。

・県政出前講座

県政出前講座とは、県民の要請により職員が集会などの場に出向いて、県政についての説明を行うものです。2023年度はやさしい日本語や多文化共生の地域づくりをテーマに講座を行っており、公民館主催の市民講座や小中学校、特別支援学校の授業などで利用されています。CIRは、やさしい日本語の講座では、受講生にロールプレイを通じて外国人にとって難しい日本語や伝わりやすい言い換えを教え、多文化共生の地域づくりの講座では、児童・生徒などに外国の遊びや文化を音楽や映像を交えて教えています。本講座は外国人ならではの視点や経験



県政出前講座

が活かされており好評で、2023年度は21回実施しました。

・埼玉県語学指導助手受け入れ活用連絡協議会

本県では、JETプログラムにより県内任用団体に配置されるALTの受け入れ、活用を円滑に行うとともに、地域レベルでの国際友好親善交流を促進することを目的として、県および県内任用団体で構成される埼玉県語学指導助手受け入れ活用連絡協議会（通称：JET協議会）を設置しています。

本協議会では、CIRが県職員と協力し、ALTを対象として、職務・生活面で必要な情報や日本文化に触れる機会を提供するためのオリエンテーションや、埼玉県の文化や特色について学ぶために文化体験施設などを訪問する実地研修などを実施しています。

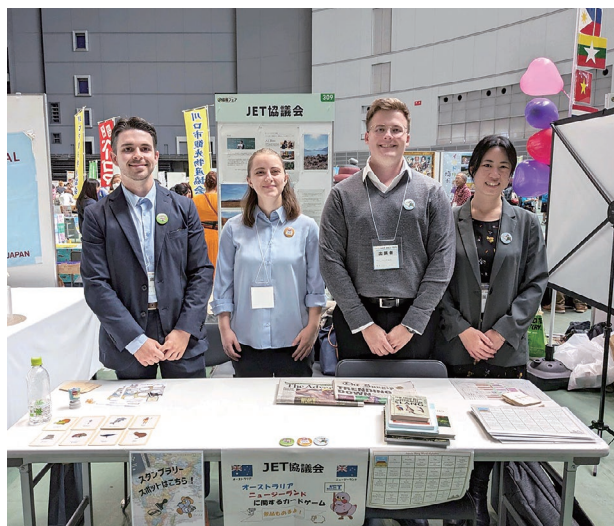
また、2023年度には、(公財)埼玉県国際交流協会主催の国際交流イベントである「国際フェア」が4年ぶりに開催され、ALT 2名の協力を受け本協議会もブースを出展しました。



ALT向けオリエンテーションでの講義



文化体験施設実地研修（和紙作り体験）



「国際フェア」でのJET協議会ブース出展

当日は、協力いただいたALTの出身国であるオーストラリア、ニュージーランドに関するカードゲームを実施し、多くの来場者にご参加いただき、交流を楽しんでいただきました。

・世界各国との交流

埼玉県では、姉妹友好提携を結んでいる5つの州省（メキシコ・メキシコ州、中国・山西省、オーストラリア・クイーンズランド州、アメリカ・オハイオ州、ドイツ・ブランデンブルグ州）との交流を中心に、世界各国との国際交流を推進しています。

CIRは、各国の要人などへの書簡や大使館、州政府関係者らとの会議・打ち合わせなどの連絡・調整にかかる通訳・翻訳業務を行っています。

各国関係者との連絡・調整においては、単なる言語の通訳・翻訳だけでなく、相手国との文化や慣習の違いを踏まえてどのようにコミュニケーションをするべきかについてもCIRから意見をもらっています。

また、クイーンズランド州、オハイオ州との交流事業の一環である奨学生派遣事業においては、応募者の英語力を評価する面接官の役割を担っており、学習や生活に必要な語学力の審査を行っています。

おわりに

CIRの活躍は、本県の多文化共生や国際交流を推進する上で、大きな力となっています。今後も、日本人住民と外国人住民、そして埼玉県と世界の懸け橋として、活躍してもらいたいと思います。